

# 株式会社システムハウス、アイエヌジー

## 「BOM for Windows」導入で、 システム管理業務に要する時間と コストの大幅な削減を実現するとともに、 日々の不安やプレッシャーから解放された

株式会社システムハウス、アイエヌジーは、1985年1月の創業以来、ソフトウェア・システム開発事業を中心に、システムインテグレータとして金融・流通業界において多くの実績を有する。同社は、社内のシステム管理にセイ・テクノロジーズのサーバー監視オールインワンツール「BOM for Windows」を活用し、管理業務の高度で効率的な運用とともに圧倒的なコストパフォーマンスを実現している。



### 導入前までの経緯

- 仮想サーバー設置に伴い、社内システムの運用・管理業務を効率化したい。
- サーバー管理をより確実に、低コストで遂行できるツールを求めている。

### 導入後に期待される効果

- ログ分析等の時間、労力を大幅に低減し、業務領域の拡大を実現。
- 「BOM for Windows」の採用によってローコスト、ハイパフォーマンスの管理業務推進に貢献。



株式会社システムハウス、アイエヌジー  
システム管理室 教育推進室  
グループマネージャー 入江直之氏

### 金融・流通部門で 業界トップクラスの実績を有する システムインテグレータ

東京都台東区蔵前を拠点にシステム開発を中心としたSI事業を展開するシステムハウス、アイエヌジーは、金融・流通部門で業界トップクラスの実績を有している。投資信託総合管理システムや、流通全般の業務アプリケーション開発では顧客先から高い信頼を獲得しており、とくに金融関係では、投資信託におけるシステム開発に他社が注目していなかった時代からいち早く取り組み、数多くの実績を蓄積してきた。同社のシステム管理室 教育

推進室グループマネージャーである入江直之氏は、「金融・証券のSEが40%を占め、事業の中心となっており、勘定系システムなどに当社独自の強みを持っています。近年は、通信分野などへも事業を拡大しています。こうした環境のなか、情報セキュリティとくに情報漏えいに対する企業意識の高まりの中で、私たちも細心の注意を払って事業に取り組んでいます」と語る。同様に、社内のシステム管理においてもIT企業として果たすべき、大きな責任を感じている。

同社は、システムエンジニアを中心に180名の社員を擁し、PCも約130台に達する。システム管理室は、これらのスタッフの業務が円滑に効率的に遂行されるよう社内システムの管理・運用に万全を期している。管理室にとっては、社員がサービス提供の対象となる、いわばお客様なのだ。

### 必要十分な機能と圧倒的な コストパフォーマンスを評価し BOMを導入

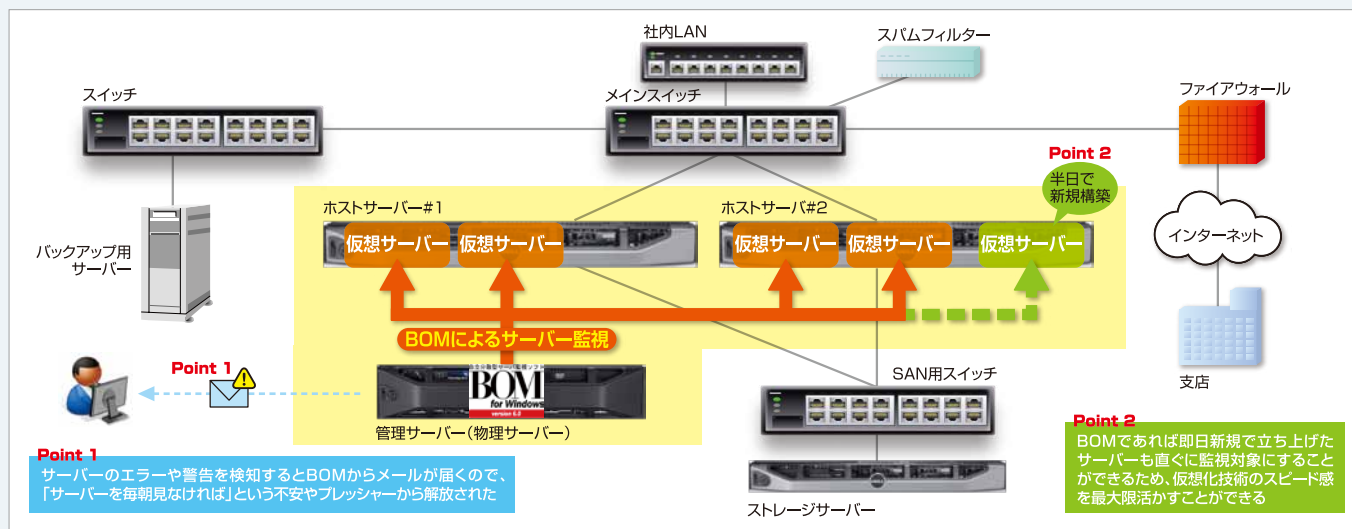
同社は、業務拡大に伴い、基幹サーバーに

よる運用に加えて仮想サーバーの設置を計画した。仮想サーバーを活用することによって、システム管理者を少なくし、業務の可用性を上げることを目的とするものだった。経常的に使っているサーバーを含め、人手をかけずに運用・管理するとともに、コストセーブも目指した。こうした効率化の実現によって、今までトライしなかったことにもチャレンジした。例えば、本社の周辺である浅草橋、御徒町一帯2キロ四方はもの作りの街として、「モノマチ」と呼ばれている。これらの地場産業を支援し、自分たちも街の活性化に力を尽くしたい。こうした思いから、「モノマチ」をバックアップするアプリケーションを作成した。仮想サーバーなら、その開発環境構築を半日でできるのだ。

このように仮想サーバーの利用が拡大するに伴い、システム管理・監視についても、より安全で効率性の高い機能が求められた。そこで選んだのが「BOM for Windows」だった。

BOMは、最小単位1台からのサーバー監視が可能で、マネージャーサーバーも高価なデータベースサーバーも必要ない。監視対象サーバーにインストールしたBOM自身が、

## BOM for Windows による社内システム監視 活用例



株式会社システムハウス、アイエヌジー  
システム管理室 サブマネージャー  
金丸 茂男氏

監視・通知・リカバリーのすべてを実行する。面倒な設定作業は、豊富に付属するテンプレートと、設定済みのサーバーからのデータインポートで効率的に処理ができる。24時間365日、つねに稼動するサーバー群のイベントログ確認からディスク残容量の調査、不正アクセスの調査や過負荷による障害の調査など、大きな責任を担う入江氏たちにとって、BOMは打ってつけのソフトウェアだと言えた。入江氏は続ける。「もちろん、他社比較はしました。その中で、BOMのコストパフォーマンスの高さは圧倒的でした。そして、当社の規模、人員数ではBOMの仕様は必要十分なものでした。BOMしかなかったと思っています」。

さらに、「当社の使用しているサーバーのサポートが2014年に終了するため、2013年末に更新しました。かつてサーバー更新時には、移行後の運用検討を事前にしっかりと行ったうえで、移行計画を遂行していましたが、BOM導入後は更新に要する多大な労力

と時間を低減することができました」と言う。サーバー更新の際も、シャットダウンすることなく、稼働させながらバージョンアップができ、加えてBOMに予め用意された監視テンプレートを組み合わせることで、時間をかけずにセットアップと監視の運用をスタートさせることが可能になった。BOMを活用することで、業務の確実性と効率性が飛躍的に向上したという。

### システム管理の効率化・ 低コスト化により、 大幅な業務改革を実現

2013年1月、BOMが稼働してからは、システム管理室の業務は大きく変化した。それまでは、出社すればまずサーバーのログチェック、外部アクセスのチェックなどに時間を要した。また、チェックには時間がかかり、高負荷がかかっていたが、今では事前に検知対応可能になった。さらに、基幹サーバーの再起動についても、エラーがでないか、ずっと監視していなくてはならなかったが、現在では翌日チェックするだけでよくなった。入江氏は「チェックに時間をかけることはなくなりました。毎朝見なければという不安も解消されました。BOMがやってくれるという、この安心感はお金には変えられないものです」と言う。

セイ・テクノロジーズでは、BOMの使い方について顧客向けの講習会を開催している。セットアップや監視の範囲など基本的な活用

方法を説明するのだが、入江氏によれば、セットアップは短時間で使い方は簡単だった。ただ、何がどこまでできるのか最初は分からなかった。講習会に参加してみてもっと有効に使えると理解できた。あらかじめ添付されているテンプレートで広い範囲をカバーでき、システムを俯瞰するイメージで状況を容易に把握できるようになったと言う。また、システム管理室のサブマネージャー金丸茂男氏は、こう語る。「私はBOM導入後に配属されたので、実はシステム管理について、毎朝出勤するとログをチェックするといった体験はしていません。メールをチェックするだけでシステムの状況を把握することができますから。私自身、開発チームの出身なので、管理業務以外にも、お客様のところへ同行し、開発チームの支援をするなどの活動が可能になっています」。BOM導入による効果は、従来のシステム管理という概念そのものも変えてしまったようだ。

同社では今後、管理業務だけではなく社内向けサービスにも展開したい考えだ。例えば、出退勤管理。社員が自ら勤務時間をメールで入れるシステムを社内ですべて独自に作成したが、折々にエラーが出る。これを自動的にリトライする設定にしたいという。BOMは、テンプレートだけでカスタマイズすることなく幅広く応用できる。管理室では、運用監視からシステム移行業務に重点を置くとともに、さらに教育や開発支援により時間を割くことで、業務の幅を拡大していく計画だ。



製造・開発元

セイ・テクノロジーズ株式会社

〒112-0005 東京都文京区水道1丁目12番地15号 白鳥橋三笠ビル8階  
TEL.03-5803-2461 FAX.03-5803-2463

<http://www.say-tech.co.jp/>

※記載されている会社名および製品名、ロゴは各社の商標または登録商標です。  
※記載されている内容は予告なく変更する場合がございます。予めご了承ください。

お問い合わせ